

プログラム

<1>バロックステージ

- ・合奏協奏曲 Op6-4 (ヘンデル)
- ・ギター協奏曲 二長調 (ヴィヴァルディ)

<2>世界のポピュラー音楽

- ・アルディラ (カンツォーネ～イタリア)
- ・パリの空の下 (シャンソン～フランス)
- ・イパネマの娘 (ボサノバ～ブラジル)
- ・ダイアナ (ロックンロール～アメリカ)
- ・川の流れるように (歌謡曲～日本)

<3>近代音楽ステージ

- ・ロマンス (シベリウス)
- ・シンプルシンフォニー (ブリテン)

曲目解説

Stage1 バロックステージ

●合奏協奏曲 Op6-4 (ヘンデル)

1 Larghetto affettuoso 2 Allegro 3 Largo, e piano 4 Allegro



ヘンデルは「水上の音楽」や「王宮の花火の音楽」を作曲したことで有名です。彼は、ヴィヴァルディの「調和の靈感」やバッハの「ブランデンブルグ協奏曲」と並び称されバロックの傑作と称えられる全12曲からなる「合奏協奏曲集作品6」を1739年の秋に、僅か1カ月間で作曲しました。『究極の癒し』にふさわしいとても楽しい曲ばかりです。

この曲はその中の第4番です。ヴァイオリン独奏が美しく、合奏協奏曲はバロック時代の協奏曲の最も重要な形式のひとつで、コンチェルティーノと呼ばれる独奏楽器群とリピーエーノと呼ばれる合奏からなり、コレルリの作品にも大きな影響を与えています。この曲も同様ですが、シンフォニックな響きや強弱の鋭い対比、音楽の劇的な転換などがヘンデルならではの斬新さといえるでしょう。

最後に音楽のトリビアを。『バロック期の偉大な二人の作曲家ヘンデルとバッハは、ともに1685年にドイツで生まれ、ともに白内障を患い、同じ医者が治療にあたり、回復しなかったという奇妙に符合する生涯を送りました。』

●解説：安達一幸 (ヴァイオリン)

●ギター協奏曲二長調 (ヴィヴァルディ)

1 Allegro 2 Largo 3 Allegro

生涯500を超える協奏曲を作曲したといわれるヴィヴァルディは、マンドリンやリュートなどの撥弦楽器(はつげんがっき)にも名曲を残しています。一般に「ギター協奏曲 二長調」とされるのは「リュート・ヴァイオリン・ピオラダモーレ・通奏低音のための室内協奏曲 二長調」のことであり、今日の演奏では、このリュートのパートをギターが演奏しています。通常の弦楽合奏体とソロギターの協奏曲という形を取るために、弦楽器のバランスを考慮し、ヴァイオリンパートに若干の手を加えています。

この曲はマンドリンやギターの合奏に編曲されて演奏されることも多いようですが、ソロギターと弦楽合奏によるオリジナル編成の演奏を聴く機会は意外に少ないようです。その理由の一つは弦楽合奏とソロギターの音量バランスにあるのではないかと考えています。本日の演奏はどのように響くか、乞うご期待です。

●解説：島崎 洋 (指揮)



Stage2 世界のポピュラー音楽

今年の第2部は、世界の色々な国の音楽にスポットをあてました。民族色の強いものは除き、ポピュラー音楽として確立しているジャンルの中から代表曲を選びました。

1. アルディラ (カンツォーネ～イタリア) 曲：カルロ・ドニーダ 編曲：島崎 洋

最初は、イタリアからカンツォーネを演奏します。カンツォーネとはイタリア語で「歌」という意味ですが、日本では50年代以降に流行したイタリアンポップスのことを意味することが多いようです。この曲は1961年のサンレモ音楽祭優勝曲で、いかにもイタリアの音楽らしく、イタリアオペラやナポリ民謡などに通じる絶唱型の音形を持っています。

2. パリの空の下 (シャンソン～フランス) 曲：ユーベル・ジロー 編曲：島崎 洋

フランスからはシャンソンです。この曲はシャンソンの代表曲とも言え、聞いただけでパリのムードに浸ることができます。アコーディオンを意識した編曲にしてみました。同じシャンソンの名曲に「パリの屋根の下」という曲もあるので混同されないようご注意ください。

3. イパネマの娘 (ボサノバ～ブラジル) 曲：アントニオ・カルロス・ジョビン 編曲：島崎 洋

ボサノバは1960年代に、ブラジルのリオデジャネイロ周辺で、サンバのリズムにジャズが融合して生まれたと言われています。この曲はジョビンの代表作というだけでなく、ボサノバ音楽の代表曲とも言えるでしょう。ボサノバギターを弦楽器のピチカートに置き換えて編曲しました。

4. ダイアナ (ロックンロール～アメリカ) 曲：ポール・アンカ 編曲：島崎 洋

ポピュラー音楽の宝庫アメリカからは、「ロックンロール」を取り上げました。ロックンロールと言えば、一般にはプレスリーを思い浮かべる方も多いと思いますが、日本の場合、ウエスタンカーニバルやロカビリーブームのイメージが強いため、ポール・アンカのこの曲を選んでみました。

5. 川の流れるように (歌謡曲～日本) 曲：見岳章 編曲：島崎 洋

歌謡曲を、日本を代表するポピュラー音楽であるということには、異論も多いのではないかと思います。ポピュラー音楽のジャンルと言えるかどうか疑問です。しかし、すべてを包括しているいかにも日本らしい音楽とも言えます。本日は歌謡曲の女王、美空ひばりさんのこの曲をお楽しみください。 ●解説：島崎 洋 (指揮・編曲)

Stage3 近代音楽ステージ

●「ロマンス」Op-9 2 (シベリウス)

シベリウスは、ロマンスと名の付くピアノやヴァイオリンのための小品を何曲か作っています。しかし、この曲は最初から弦楽合奏曲として、1903年(38歳の時)に作られました。プロのオーケストラが舞台の合間に演奏することもあります。アマチュアの弦楽合奏団が演奏することは少ないようです。重厚なドイツ音楽のような雰囲気があると言われるますが、フィンランディアや2番交響曲を聞く機会の多い我々には、やはりシベリウスの曲だと思わせる音づかいを、随所に感じるのではないのでしょうか。

この曲を聴くと、フィヨルドをまだ見たことのない私は、東山魁夷画伯がリトグラフにした、奥深い森に静かにたたずむ湖と白馬の光景を頭に浮かべてしまいます。 ●解説：高橋文明 (チェロ)



●「シンプルシンフォニー」(ブリテン)

ブリテンは歌劇「ピーター・グライムズ」や「戦争レクイエム」などで知られるイギリスを代表する作曲家です。日本との関係も深く、1956年に日本に来日し、NHK交響楽団を指揮して「シンフォニア・ダ・レクイエム」の日本初演を果たしました。

「シンプルシンフォニー」は4楽章の楽曲から成っており、ユーモアや遊び心がちりばめられた、聴いていて心躍るような曲です。シンフォニーとなっていますが、一つ一つの演奏時間は短く、交響曲というよりは、組曲に近い感じがします。1楽章「騒々しいブーレ」、2楽章「おどけたピチカート」、3楽章「感傷的なサラバンド」、4楽章「浮かれたフィナーレ」と題の通り、どの曲も個性的で機知にあふれています。

ちなみに「シンプル」は「単純な」という意味ではなく「純真な」という意味で用いられています。というのも、この曲はなんとブリテンが9歳から12歳ごろに作曲したピアノ曲をもとに20歳の頃に作ったと言われてます(若いですね!) そのことから、無垢な気持ちで作曲に打ち込む自身の少年時代を懐かしむような、美しさで活気にあふれた楽曲となっています。 ●解説：伊東朋美 (チェロ)